

令和2年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立南紀支援学校

学校長名： 森 裕

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人のニーズや課題に応じた教育を進める学校 子どもが安心安全に生活できる学習環境の整備を進める学校 地域における特別支援教育の専門性を生かしたセンター的機能を担う学校 健やかに生き、豊かに学び、仲間とともに社会で生きる子どもの育成
-------------------	---

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 子ども一人一人の実態に応じた授業実践及び授業改善
	2 はまゆう支援学校との統合に向けて、統合校における学校運営を整え、新校舎の建設において児童生徒が安心安全に活動できる学習環境の整備
	3 学校周辺の地域資源を活用した教育実践

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 肢体不自由教育における専門性のさらなる向上 上富田町の地域資源を把握し、教育実践に活用 統合校での充実した特別支援教育の展開
--------	--

学校評価の結果と改善策の方策の公表の方法	学校評価の結果を踏まえ、学部、分掌、運営委員会等で改善策について検討し、職員会議で結果と改善策を含め、職員全体で共通理解を図る。また、保護者には育宝会役員会及び総会を通じて、結果と改善策を報告する。併せて学校運営協議会においても結果と改善策を報告し、意見を頂くとともに今後の本校教育への協力を依頼する。
----------------------	---

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					年 度 評 価 (3月19日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	キャリア発達を軸に児童生徒一人一人が主体的に関わる授業づくりを学校として2年研修してきている。児童生徒一人一人が主体的に関わるためには、個々の実態に合わせた授業づくりについて深める必要がある。	児童生徒一人一人の実態を具体的に把握し、自立に向けて必要な能力や態度を育てるキャリア教育の視点で授業を実践しているか。	授業チェックシートを活用し、授業改善をする。	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による指導助言の機会を年1回以上設定する。 各学部においてビデオ等を活用した研究授業を年1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関西国際大学梶教授に継続して研究に関わって頂き、まとめとして講演を頂き、職員の授業改善への意欲も高めることができた。 全教員による小学部のビデオ研究授業を行った。その他各学部内で授業研を行い、授業改善に努めた。授業者の課題に他学部から見た意見を出し合うことができた。 	B	統合に向け令和4年度から南紀支援学校・はまゆう支援学校の両校で研究テーマを統一していくことが決まっている。本校として次年度は、新学習指導要領に沿った研修を核としつつ、初任研や学部研等で肢体不自由の専門性として大切にすべき事を共通理解し、授業改善を積み重ねることが課題である。
2	昨年度、はまゆう支援学校との統合に向けた課題について集約することができた。今年度は、統合後の学校運営に係る改善策を検討する必要がある。また、新校舎の建築工事開始に伴い、児童生徒の安全確保・管理の徹底及び学習環境の整備をする必要がある。	統合校における知的障害・肢体不自由を主とする児童生徒にとっての学校運営となっているか。また、新校舎の建築までに児童生徒等の安全を確保する計画がなされているか。建築開始後は、安全確保とともに学習環境が保証されているか。	<ul style="list-style-type: none"> はまゆう支援学校と管理職、主事、分掌部長、寄宿舎総務ごと課題に合わせた合同会議を計画的に実施する。 適宜両校教職員の合同会議を実施することで統合後の学校運営を検討し、共通理解する。 工事に向けて県教育委員会、施工業者等、保護者と連携して、児童生徒の安全確保と学習環境の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のための方策が決まり、解決に向けて取り組まれているか。 統合校の学校運営について全職員が理由を説明できるか。 工事や工程の内容を教職員が共有し安全確保対策が行われているか。 工事中の学習環境に支援ができていないか。 保護者、地域住民への説明を適宜実施しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、統合校の学校運営を全職員で共通理解し、その後、統合校のめざす子ども像、学校教育目標、つきたい力について(案)を作成した。 新型コロナウイルス感染症に伴い、保護者等への説明をする場の設定が難しい中で、3回の統合委員会を開くことができた。その中で、保護者から意見を頂くことができた。 	B	学校運営について大枠は確認することができた。令和5年度の統合に向け、具体的な取り組みについて検討し、調整していく必要がある。特に教育課程・行事等の具体的な取り組みについて検討する事が課題である。また、工事の進捗状況や統合に係る取り組み等、保護者への説明責任と合わせ、両校のPTA活動をどのような形で統合していくのか検討を始める事が課題である。
3	地域との連携として居住地域交流や学校間交流等を行ってきた。同年代の児童生徒との交流は積み上がってきた。今後は、地域資源を活用し、教育活動に取り組むことで、地域住民との交流を通して本校の児童生徒が地域へ主体的に関わっていくことが必要となる。	地域の活動を教育活動にいくつ取り入れることができたか。児童生徒が地域との関わりの中で達成感が得られたか。	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会と連携し、地域資源を把握し、教職員で共通理解する。その後、教育活動の中で教育資源を活用していくことを通じて、児童生徒が主体的に地域の人と関わっていく機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動を3回取り組む。 児童生徒個々の達成感(達成度)が50%以上ある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流活動を検討していたが、新型コロナウイルス感染症対応として児童生徒の安全を優先した。結果、計画はしたが、実施ができなかった。その中で職員が地域を意識した計をする事が増えて来ている。 具体的に地域との活動機会を設定できなかった。 	C	新型コロナウイルス感染症への防止等の対策をしつつ、地域の人との関わりの機会をどのように保障し、取り組んでいくことができるのかが課題である。良い時期にすぐに取り組める計画を立てること、ICTを活用して繋がることなど工夫し、次年度に取り組む。

学校関係者評価
令和2年12月17日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・いつも先生方は、子どもたちのために教育・健康・安全に工夫され取り組まれている姿を拝見し、頭の下がる思いです。 ・令和2年度は学校を訪問する機会も少なく、コロナ禍が早く収まることを願っています。 ・南紀支援学校の中身を知れば知るほど子どもたちによりよい環境を整えて、一人一人と寄り添っていかうと努力されていると感じられます。 ・統合後も同じ環境が維持されますようにお願いします ・地域との関わりは学校側が門戸を開いても地域の方も関心を持たないと難しいと思います。